

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

トマ喰い虫社

☎045(563)5101 FAX045(563)9907

[郵便振替] 東京6-136148

トマ喰い虫社

No. 72
91.10.20
定価 100円

基地賛成派
資本家
政府の役人



上院議員のみなさん、これが
国民の願いです

Philippines Daily Inquirer 91.9.17より

ブッシュ提案と反核運動

強襲揚陸艦

ベローウッドの佐世保母港化を止めよう!

沖縄から/平和船団レポート/クラークさんのメッセージ

[フィリピン発] なぜ新基地協定に反対するのか

[発行] トマホークの西配備を許すな! 全国運動

●維持会員(月間会費)

●参加会員(月間会費)

●通信会員

団体 1口 2000円

団体 1口 1000円

年間 1口

個人 1口 1000円

個人 1口 500円

2000円

あなたも仲間! (会費は本誌購読料を含みます)

ブッシュ提案を どう読むか

梅林宏道



問題を押し上げた 反核運動

「何と事態が変わったのだろう。」
今年の五月、アメリカ科学者連盟(FAS)が海洋戦術核の米ソ軍縮交渉を呼び掛けるキャンペーンを開始したことを知ったとき、感慨深くそう思った。海洋戦略核である潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)には触れない限定的なものではあったが、キャンペーン呼び掛けの署名者の中にはハーバート・ヨーク

やジェローム・ウイズナーなどの科学者の他に、マクナマラ元国防長官、リチャードソン元国防長官、ニッツ元海軍長官など元ペンタゴン関係者が数多く名前を連ねていた。
一九八四年、日本で私たちが反トマ運動を始め、太平洋レベルではPCDS(太平洋軍備撤廃運動)が始まった頃には、海洋核の軍縮が現実にとのような過程で進展するの、全く先が見えなかった。米ソ政府がこの問題をとり上げるかどうかの以前に、世界的な反核運動の中の意思統一もなかった。ヨーロッパの反核運動のピークが過ぎた後の方針をめぐる混乱の中で、ヨーロッパの反核運動が置き去りにした海洋の中距離核に焦点を当てた闘いが、核トマホークの配備をきっかけに活動家たちの手で始められたというのが実状であった。

一九八七年にグリーンピースが「海の非核化キャンペーン」を始めたとき、米国の反核・軍縮グループの主流は「グリーンピースは、他の軍縮運動と九〇度違う方向に進もうとしている」と批判した(『ニュークリア・タイムズ』一九八七年一一・一二月号)。これはグリーンピースを名指して批判したものであるが、私たちのような弱小の草の根運動は、もちろん困難な状況に置かれていた。しかし、運動は確実に広がっていた。とり

わけ、ニュージーランドの米核艦船拒否(一九八五年二月)は甚大な影響を及ぼした。アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、オランダ、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、フィジー、フィリピン、日本などの各地に、核艦船の行く手を阻む目に見える闘いが広がった。太平洋にはバヌアツ、ペラウなど、それに先立つ拠点国家が作られていた。

米政府内部に変化

紙面の都合で多くを紹介できないが、流れが変わる兆候を私たちは何度か目撃してきた。たとえば、一九八八年六月、スウェーデン首相は、国連の場で「核保有国の艦船が、日常的に世界中に運ばれている戦術核は、国際社会の脅威であり、世論の懸念が増大しているのは正当なことである」と演説し、核兵器の存在を否定も肯定もしない政策(NCND政策)の撤回を要求した。一九九〇年には現役の米原子力潜水艦司令官フラッコ少佐は、「

核兵器搭載疑惑のために、米海軍が入港し得る港がどんどん狭くなっている。」と分析し、NCND政策の変更を求めた論文を発表し、海軍当局に近い雑誌がそれを掲載した(米海軍協会『プロシードインクス』一九九〇年一月)。

海洋戦術核をめぐるペンタゴンと米議会の関係に重要な変化が現われたのは、一九八五年から一九八七年にかけてである。議会は戦術核でバックアップすることによって、通常兵器によるソ連との海戦に勝利するという海軍の考え方を拒否して、対空ミサイル「スタンダード2」の核弾頭化を否決した。その結果、海軍は古くなった海洋戦術核を更新する計画を放棄し、一九八七年にはテリア対空ミサイル、サブロックおよびアスロックの対潜水艦ロケットの三種類の海洋戦術核の退役を決定した。(一九九〇年に完了)。

これらのペンタゴンの決定は、直接には反核運動に起因するものではなく、米国の財政破綻、米ソの緊張緩和と背景を持つ米海軍の戦術転換に起因している。しかし、海洋核をターゲットとした反核運動も政策決定に影響を与えたと想像してもひいき目に過ぎることはないであろう。少なくとも重要なことは、このペンタゴンの変化が、海洋核軍縮を求め反核運動と相乗効果を生みながらその後の

潮流を作り出した。

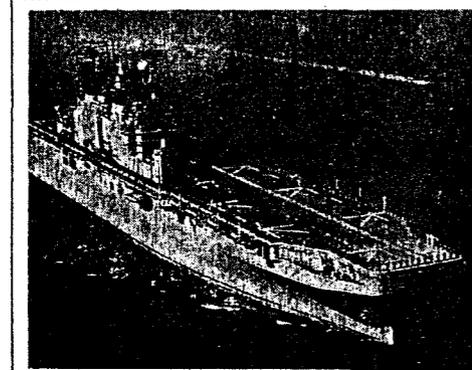
一方で、世界の反核運動の動向をゴルバチョフ陣営が利用しはじめた。ゴルバチョフの軍縮顧問であったアフロメーイエフ元帥は、一九九〇年五月に米議会で証言し、「戦略核の削減交渉もヨーロッパの通常兵器削減交渉も海洋核軍縮交渉が始まらなければ止まらざるを得ない」と警告をした。

このような中で、つぎつぎと新しい兆候が現われ始めた。米太平洋軍の委託を受けたシンクタンク・ランド研究所は、一九九〇年六月に新しい太平洋戦略に関する勧告をまとめ、その中で「すべての水上艦から核兵器を撤去するなどの戦術核の軍縮」、「NCND政策の見直しの検討」などを勧告した。後者の勧告の理由には、日本で核問題に敏感な政府が出現する可能性を指摘している。さらに退役したばかりのクロウ前米統合参謀会議議長は、今後の太平洋の軍縮問題を論ずる中で、「戦略原潜以外のすべての軍艦から核兵器を撤去することが、米ソ両方にとって利益である」と述べた(『フォリン・アフェアーズ』一九九一年春号)。

ブッシュ提案に含まれた海洋戦術核に関する新展開は、このような中で出現した。海の非核化を目指す世界の反核運動は、ひとまず「いい仕事をした」と言うべきであろう。日

佐世保を軍事介入の
出撃基地にするな!

●全国から反対運動を起そう!



佐世保への配備が発覚されたペローウッド (シェン年鑑から)

「緊張緩和に逆行」 革新団体 など反発

ペローウッドは全長二百メートル、幅四十メートル、重量約九百トン、サンディエゴ二隻の合計五隻が配備され、空母、空母用、攻撃用ヘリコプター、大型医療用ヘリコプター、三機、垂直離発着機、米軍住宅増設、沖能、海兵隊一機、約千七百名、戦車、装甲車などの機甲戦闘用重装備を空母から陸揚げ、水陸共同作戦の中核指揮を担う。

佐世保には現在、トック

ペローウッドの配備につ

研究家の今川正美代表は「これからは朝鮮半島はじめアジア全域で緊張緩和を現実化していくことが世界の流れに逆行している。後方支援基地機能の喪失強化には反対運動を強めていかねばならない」としている。

一方、ペ号配備は佐世保工業(SOIK)の立神岸壁使用に対する制約の拡大など港の利用面でも影響を及ぼす。

佐世保など
実行部隊に

軍事アナリスト、小川和久さんの話、戦略的根拠地である在日米軍基地の重要性が対ソ連から地域紛争封じ込めへと移行、横須賀の空母部隊と佐世保の強襲揚陸部隊がその実行部隊になっている。在韓・比の野戦部隊が不要になっても佐世保などの位置付けは相対的に高まるのではないかと

※日本はまたまた危険きわまりない戦争の機械を引っ張り込もうとしている。「強襲揚陸艦」は、兵器や兵士や物資をより早く、より大量に戦場に投入するための船だ。攻撃用ヘリコプターと陸上部隊が一体となって、「敵」をたたきのめすこの上なく攻撃的な軍事介入のための船だ。

※ソ連はもうアメリカの敵ではない。ペローウッドが狙いを定めるのは、アジアや中東でアメリカの「国益」を「害する」局地紛争一たとえば湾岸戦争のようなものであることは間違い無い。

※こんな船を「思いやり予算」まで支出して受け入れる困にPKOに参加する資格はない。母港もPKOもつづそう!

(次号で詳報)

1988年 9.10.16

強襲揚陸艦ペローウッド 来夏、佐世保に配備

米海軍発表

【佐世保】米海軍は十五日、タラワ級強襲揚陸艦ペローウッド(三九三〇〇)を来夏夏末に佐世保基地に配備する、と発表したが、同艦は攻撃ヘリコプターを搭載して多様な揚陸作戦を展開する。

革新団体などは「緊張緩和の流れに逆行、佐世保を地域紛争への出撃基地にするもの」と反発している。

本の運動もそれとともにあった。一九八六年の戦艦ニュージャーシー寄港反対闘争の報道に対して、ヨーロッパから「自分たちへのかけがえのない激励」と手紙が届いた。アメリカの反核研究者たちは、日本の反トマホーク、反母港運動を支えるために協力を惜しまなかった。

外国基地撤去の 世界的運動を!

ブッシュ提案には、数々のごまかしや問題点がある。個々の分析を数字をあげて裏付ける紙面のゆとりがないが、今後の運動を考える上での問題点のみを要約しておこう。

表に掲げたものは七月末に調印されたSTART A R T (戦略核兵器削減条約、批准はまだ)とブッシュ提案が実行された暁における米ソの核弾頭数の試算である。

表を見て明らかのように、STARTとブッシュ提案の両方が実行されたとしても、アメリカの核弾頭数の三分の二が残る。オーバーキルの現状は全く変わらない。従って、核廃絶の観点からは、ブッシュの誇大宣伝に惑わされず、まだまだ前途遠慮であることを強調しなければならぬ。

軍事費削減を求める米議会の圧力は極めて強い。もちろんソ連の国内事情はもっと厳し

い。そんな中で、今回の提案には、海洋戦略核(SLBM)に大きく比重を移し、SDI計画を残してソ連公認の計画にしようとするブッシュ政権の意図が現われている。提案で戦略爆撃機と一部ICBMによる二四時間警戒体制を解除し、一方、戦略原潜警戒体制に手を付けられないことよって、核抑止の中心である戦略核警戒体制の弾頭の約七〇%がSLBMで担われることになった。今後の米軍の動向を考えると、この事実を押さえておくことが重要である。

すべての軍艦から平時に戦術核を撤去するという提案項目は、核事故の可能性を減ずる意味で歓迎される。しかし、有事搭載とされ、NCND政策を転換するという明確な発表がなされていないために、日本の反核運動には極めて困難な状況が残った。つまり、船はもはや核を積んでいないから非核三原則は自動的に守られると人々が錯覚してしまう危険性が強い。NCND政策の転換を求めることが極めて重要である。

さらに戦術核撤去方針の背後に同盟国への世論対策があることは既に述べたとおりであるが、このことは同時に私たちが世界的な外国基地撤去への声をあげるべき時代に入ったことを物語っている。ここでも「地球的に考え、地域で行動しよう」である。

	アメリカ ²⁾	ソ連 ²⁾
現状核弾頭数 ¹⁾	19,206	25,076
戦略核	12,006	10,841
戦術核	7,200	14,235
START削減後 (1992-99)	16,030 (3,176削減)	22,275 (2,801削減)
戦略核 ¹⁾	8,830	8,040
戦術核	7,200	14,235
ブッシュ提案実現後	12,780 (3,250削減)	13,940 (8,335削減)
戦略核	8,830	8,040
戦術核	3,950	5,900
両計画実現後の削減率	33.5%	44.4%

注: 1) 現状のまま推移したとして1995年頃に見込まれる核弾頭数。2) アメリカのデータは筆者の試算。ソ連のデータは、カナダ核軍縮センターによる。

沖繩から

伊波洋一 ● 宜野湾市職労委員長

沖繩がかわれば アジア・太平洋がかわる 連帯を広げ、多様なこころみを

空母インデペンデンスが初めて母港横須賀に来る九月十一日に、市民団体が中心に取り組んだ平和船団に参加した時、「トマ喰い虫」の編集長田巻さんから、沖繩の視点での寄稿依頼があり、書かせてもらいます。

横須賀の印象

平和船団への参加は、大変貴重な体験でした。責任者の新倉さんの説明で海上デモが米軍基地のすぐ近くまでできるということや横須賀港にレジャーボートを繰り出す施設の建設のことなどを知り、海が公のものとして全ての個人に開かれているということを実感しました。指揮船に乗船して平和船団の行動に参加できた経験を生かして、沖繩の軍事基地

の撤去の運動についても多様な取り組みをしていきたいと考えています。

インデペンデンスは「寄港」ではなく、ヨコスカへの「帰港」(COME BACK HERE HOME PORT:ラムゼー・クラーク氏の東京公聴会の来日歓迎会での表現)であることが、アジア・太平洋における米軍の戦略展開の本拠地としての日本の役割を象徴しています。今回の平和船団への参加で初めて横須賀基地を見ましたが、横須賀の米軍基地が市街中心地に極めて近接していることをしりました。港の入り口にあるダイエーと数百メートルも離れていない所を米海軍第七艦隊が核トマホークを含めた核兵器を積んで母港としていることが驚きでした。平和船団での海上デモの後、市内のデモに参加して市繁華街の通りに面してヨコスカベース正門があることも驚きでした。

沖繩では、沖繩本島の二〇%が米軍基地や演習場となっていますが、重要施設は市の中心部に近い距離にはありません。

強化される基地 激しさを増す演習

九月二十七日のブッシュ米大統領の核兵器軍縮提案は、ソ連の混乱を予想して核戦争危機の大幅な増大を未然に防ごうとするものと考えられますが、その後十月の朝鮮半島の非核化提案など確実にアジア地域における核兵器の撤廃につながるものです。核トマホークの撤去と艦船配備の核兵器の撤廃案で横須賀における核事故の危険が無くなったことは大変良いことです。しかし、このことについては日本政府からは何の提起がなかったことは、私たちの政府が世界的な平和や軍縮について政策目標をもっていないことを明らかにしており情ないことだと思えます。

今沖繩は、湾岸戦争への出兵に伴う予備役のための訓練や通常訓練の増加と合わせてフィリピンのクラーク基地閉鎖による影響で演習が激化しています。これまで沖繩の米軍関係者は米軍の演習は多くをフィリピンでも行っていると発言していたのです。

市民参加の運動が 平和を作る

このような演習激化と移駐の動きに対して県議会を始め、沖繩市・嘉手納町など多くの町村議会がクラーク基地からの移駐反対の意見書や決議を採択しています。住民団体・民主団体・労働組合では、県道一〇四号越え演習の度に早朝から現地抗議行動を組んでいます。パラシュート訓練では、読谷村を中心に現地抗議行動が山内村長を先頭に毎回取り組まれていきます。クラーク基地からの移駐反対の抗議集会は九月二十日と十月十一日に県内民主団体が嘉手納で開催し、普天間基地では十月二日に中部地区労と宜野湾市の市民の会の共催で空軍特殊部隊移駐反対緊急抗議集会が開催されました。他にも、九月六日嘉手納での都市型訓練施設の撤去を求める区民大会ほか基地反対の取り組みがなされています。

また、復帰後二十年の来年に切れる軍用賃貸借契約を解消しようとする地主に対する米軍用地強制使用公開審理が、八月十四日から始まっており、毎月一回の公開審理で強制使用反対運動が取り組まれています。今回の審理で対象に入っている一坪共有地は普天間基

地内にあり、私たちも組織的に取り組んでいます。

私たちは反基地・平和・環境市民運動の新たな取り組みとして「ピース&エコロジーうまんちゅコンサート」(ティーチン&ライブ)を八重山・沖繩・白保の海を守る会と共に県内の平和団体・環境団体・リサイクル団体に呼びかけ実行委員会を作り十月二十日に宜野湾市の屋外劇場で開催しました。各団体からの運動報告のティーチンと二千人あまりの参加者が喜納昌吉&チャンブルズと一体となって「花」の合唱で終わるフィナーレでコンサートは大成でした。沖繩語で「うまんちゅ」というのは漢字で「御万人」と書き「すべての人々」という意味です。当日は、横須賀でも市民フェスティバルが開催予定と聞いており、市民参加の運動が平和な日本を作ると確信しながら市民参加の運動を労働組合の側から積極的に連帯し進めていきたいと思えます。

私は、沖繩が変わればアジア・太平洋が変わると考えています。アジアにおける通常戦力の軍縮の要が沖繩の米軍および日本軍の縮小・撤廃であると考え、沖繩での基地撤廃の運動が世界的規模での軍備縮小に結びつくよう沖繩で運動を組織していきたいと考えています。

ついています。いくつかの部隊が沖繩に移駐しており、今後も増加する動きがあります。クラーク基地からはすでにカテナ基地の第六〇三軍事空輸支援軍の輸送部隊にC141型輸送機七機の移駐と兵員一五〇人が増員されており、第三五三特殊作戦航空団の一部、三〇〇人が、普天間基地とカテナ基地に移駐したことが確認されています。現在も、普天間基地(海兵隊航空基地)には、十月三日から迷彩色の大型輸送機C5Aギャラクシーが二〇回の予定で飛来して兵員や貨物、ヘリなどを輸送。輸送は十月二日現在も続いています。演習の激化は、県道を封鎖しての核・非核両用の一五五ミリ榴弾砲の演習が十月二十二日子定の三日間を含めて十四回、実施日数はすでに三十一回と過去最高となっています。また、読谷村の読谷飛行場跡地での民間の通行を閉鎖して行われるパラシュート降下訓練も最大規模の訓練が行われています。カテナ基地、普天間基地の周辺では、航空機・ヘリの騒音が激増しており、深夜のエンジン調整や離発着によって多くの苦情が各市町村役所に寄せられています。他にも恩名村の都市型訓練施設での演習の実施など県内各地で演習が増加しています。

雨もやんでしばらくするとインデペンデンスが見えてきました。小さな島がやって来るようです。何やら水しぶきをあげていると思ったら、歓迎船だとか。くじらではありませんでした。時折聞こえてくる新倉さんの話、また泣かせるんですよ。

そうこうしているうちにみるみる大きくなったインデペンデンスははっきりと見えるよ

怖かったのは私です

松谷聖子(横浜)

インデペンデンスの入港日、何の手伝いもしないで始発で行き。楽しんでしまいました。酔い止めの薬を飲んでおいたので波にゆられず平気でした。

雨ガッパを着てゴムボートに乗り込み、さて、誰もボートをこげる人がいません。前に乗ったことがあるとはいえ、その時はエンジンボートだったので。雨や波で手が滑り、あやうくオールが流されてしまうところでした。おまけにいくらいいでも、風に流され、波に乗せられ、こぎ方も悪いとあってちっとも進みません。今から思うと遠く流されたところではたか知れたものですが、その時はひたすら必死の思いでした。だから、ヨットを先頭とした最後尾にロープでつながれた時は本当にホッとしたものです。

インデペンデンスと四十八隻の平和船団

●十一月刊行予定
●予定価格千円
●予約受け付け中

ヨコスカ平和船団
☎0468(25)0157



写真●西山 毅



● 9.11 平和船団体験記

夢中で押したシャッター

西山 毅(東京)

右手にマイクを握り、左手でスピーカーを掴むと、新倉さんは揺れるクルーザーのデッキにすくと立ち上がった。あれがそうじゃなくと指差す方向には、遠いけれども空母独特の形が確認できる。海上保安庁のいやがらせなど吹く風と、平和船団はもっと大きな敵に向かう。アメリカの怪物にこの声が少しでも届くように。新倉さんの表情が険しくなっていく。その時ぼくは初めて闘う男の顔を見たという気がし、夢中で何度もシャッターを切り続けた。

それにしても下手な写真しか撮れなくて、みんなのエネルギーを少しも表現できなくて残念です。

入港から間もなくインデペンデンスが公開されましたが、その前日ブッシュ大統領の核軍縮声明が報道されました。当日、基地を訪れた人達は特大のステーキを食べ、米兵と写真におさまり、トウモロコシをかじりながらビールを飲んでほろ酔い気分、殺人兵器を眺めて何を思ったか。

その日も基地反対のぼく達は「さらばインデペンデンス」「さらば米軍基地」とさけんだのであります。

うになり、みんな口々に叫んでいました。でも私は、ならんで立っている米兵を見て、どうして軍人さんになったのかなあ、と考えていたのです。彼らの答える顔がいろいろ浮かんできました。事情はわかるけど、でも、で言いたくなりました。

新聞に米兵の音が載っていました。「反対運動はこわくないーって。こわいわけありません。私の方がこわがっているんですから。」

忘れない、この怒り

蔭山早苗(横須賀)

一九九一・九・一一・AM六：〇〇。雨の中、自転車で臨海公園に向かう。準備の整ったボート達。大勢の人々、テレビの中継車、カメラ、etc. 近くに住んでいながら、何も手伝わなかった後ろめたさを感じつつ受け

付けをすませゴムボートへ。水は一滴も飲まなかった。トイレもOK。いざ出港。九時過ぎインデペンデンスが見えてくる。近づく、デッキ。本当にデッキ。これか、湾岸戦争に行つたのは。隣のボートの女の子が涙ぐんでいる。船だつて何人も殺すために造られたくはなかった。人々と一緒に楽しめる船だつたらよかつたと思つているかもしれない。甲板に立っている兵隊達よ、人を殺すためにかけがえのない一生を費やすなど勿体ない。平和は自然の法則です。自然の法則に逆らうのはやめよう。自分を、他の人々を大切にしよう。それにしても、日本中から集まった仲間たち。勇気づけられます。

◆◆◆
忘れまいこの怒りを。女の子の涙を。私の胸に。

特別レポート ●●●●●

「インデペンデンスは本国に帰り 武器を降ろすべきです」

クラーク元司法長官のメッセージ

大川原百合子（市民平和訴訟の会）

私は市民平和訴訟の会の大川原百合子です。ラムゼー・クラーク氏を招へいた会の一員として、当日クラーク氏に付添って平和船団のボートに乗っていましたので、見聞きしたことを皆さんにお伝えしたいと思います。

『視察』だなんて とんでもない！

第一にお伝えしなければならないのは、クラーク氏はベトナム戦争をはじめとして、エル・サルバドル、グレナダ、パナマなどの、アメリカの武力による海外侵略に一貫して反対してきており、今回のようなデモに参加することも度々あり、けっして初めてではなかったことです。

朝日新聞にも載ったコメントをもう少し詳しくお伝えしようとなります。まず船長の

清水さんが記者の質問に答えて「結局は阻止できないのだからくやしい。」と言ったのを聞いて、おだやかに「私は出港を阻止する闘いをしてきたアメリカ人として、それを阻止できずに今ここで入港反対のデモに加わっているのだから、もっと複雑で悔しい気持ちですよ。」とおっしゃったのです。

ミッドウェイ、インデペンデンスの湾岸戦争で果たした役割、在日米軍基地の意味も熟知しており、私たちは「視察」ということでもいいたく横須賀に来てもらうと考えて「説得」するつもりでいたのですが、クラーク氏としては「視察」だなんてとんでもない。私の立場は皆さんと同じように入港反対、空母の存在自体に反対なので、マスコミにもそれを明確に伝えてください。」というのでした。

兵士だつてきつと 何かを感じるはず……

平和船団に関するコメントのいくつかをお伝えします。

一、岸を離れてしばらくしてから陸の方を振り返り、雨にけむる緑の丘を眺め、「ここに軍事基地がなければ、どれ程美しい港であつたろうか。」とつぶやいていました。

二、これは、クラーク氏ではなく、同行してきた「国際戦争犯罪法廷」（ブッシュ政権が被告）の調査委員会の女性ですが、インデペンデンスの甲板に乗組員がずらっと立ち、こちらを見降ろしている時、「彼等は力を誇示する目的であのように並ばされているのだが、彼等もやはり人間だから、私たちの抗議行動を見て、それぞれ何かを感じないわけにはいかない。実際、私がアメリカの湾岸介入に反対する運動の中で出会った人は、昔、米兵として日本に来た時に、基地にやってきた日本人のデモに迎えられる、ショックを受け、自分達は正しい、感謝されるべきことをやっていると思っていたことが、間違っていたかもしれないと思ひ、それがきっかけで、結局は平和運動家になった人だつた。」と言っていました。

これには私自身も、少数の抗議行動をしていかに無力であり、あまり意味がないのではないかと考えていたので教えられませんでした。

余談ですが、クラーク氏は若い時、海兵隊にいたそうで、日本に寄港したことは無かつたそうですが、インデペンデンスの中にもクラーク氏のようになり得る人がいるかもしれないわけですね。

三、新倉さんが繰返し、海上保安庁の人々に向かつて、「海の安全を守るのが仕事なら、どうしてまず、核を搭載するあの危険な空母を取り締まらないのか」と呼びかけているのを聞き、全くその通りだと笑っていました。

勇気をもって 軍備にNOを

四、ボートを降りてすぐ、新聞記者に平和船団に加わった感想を求められて、クラーク氏は「日本の若者たちがこのように熱意を持って闘っていることに感銘を受けた」と言っていました。

五、「インデペンデンスの乗組員たちに何か言えるとしたら何と仰いますか？」と問われて「GO HOME!そして武装を解除しろと言いたい。また、その後、粉ミルク、医薬品を満載して苦しんでいる人々のところ

に届けなさい、と言いたい。」と答えていました。

六、横須賀で予定時間を大巾にオーバーし、食事も抜いて日米議員連盟主催の講演会にかけつけたのですが、各政党の議員とその他の人々に向かつて、「私は今朝、空母インデペンデンスの入港に反対するデモに加わって来ました。昔、日本はペリー提督の率いる黒船に鎖国の静寂を破られたわけですが、今回入港した核空母インデペンデンスは黒船よりはるかに危険な船です。」と話し、ミッドウェイと同じく湾岸戦争で大きな役割を果たしたこと、日本がその母港を提供し、各地に米軍基地をおいているのは植民地化されていることとであり、日米の協力関係のあるべき姿は決してこのような軍事協力ではないと強調しました。

そして、予想される経済制裁を覚悟して、スービック海軍基地の存続に「ノー!」という勇気を示しているフィリピンの人々に学び、日本も是非、軍事基地を全廃させ、地球上から軍備をなくす方向に向かつて貢献してほしいと話しました。

この他にもお伝えしたいことはまだまだありますが、書ききれないので、九月下旬から十月上旬の朝日ジャーナルに六ページのイン



写真●西山毅 クルーザー「エスペランサ」の上で（左から清水船長、全国運動の梅林さん、クラーク氏）

タビユー記事が載りますので、読んでください。
クラーク氏が持ってきてくれた「アメリカの湾岸介入をやめさせる連帯」の旗とバッジをお贈りします。
私もできる限りのことをして戦争と軍備のない世界を実現させるために努力するつもりですので、どうか皆さんも確信を持って頑張ってください。

比米新基地協定を批判する

一九九一・八・一

ローランド・G・シンブルム教授

非核フィリピン連合(NFPF) 全国議長

(下)

II 草案の具体的問題点

上院での新基地協定否決(九月十六日)を受けて、アキノ政権はスービック基地を三年後に返還する、と表明した。その間には総選挙が予定され、決議が覆される可能性もある。予断は許さない。前号に続いて反核平和運動の側からの新基地協定に対する批判を紹介したい。核持ち込み問題については「日本方式」が採用されているし、批判の論点は「日米安保条約」や「地位協定」にも通ずるものが多い。フィリピンの人々は「金をくれてもいやだ」と言っている。冷戦が終結した今、日本の私たちもあらためて私たちの「基地協定」を見直す時に来ている。(訳・田巻一彦)

基地増強に歯止めなし

(A) 条約は第一条で米国に対して、フィリピン領土をフィリピン国内および国外に対する軍事介入のための訓練、補給、貯蔵、支援、メンテナンス、宿泊、兵たん、中継拠点として、さらには戦時および平時における出撃・作戦のために引き続き使用することを認めている。これらの活動に事前承認を与えれば、フィリピンは米国の軍事介入活動に対する積極的な共犯者となるであろう。

「非核憲法」を空洞化

(B) フィリピンはひきつづき米軍の戦闘部隊と作戦のための拠点にならうとしている。第二条(用語の定義)には基地および施設の利用を許される米軍の「戦闘作戦行動」の定義さえある。それらは直接には「敵」との戦闘を想定したものである。その「敵」は国外に在るのか、国の中に在るのか? しかし、その米国の敵がフィリピンと外交的あるいは友好的関係にある場合にはどうなるのであるか?

(C) 米軍勢力の水準の決定に関して、第三条はフィリピンに常駐あるいは一時駐留する軍事力の決定を「フィリピン政府の事前の了解を得なければならない」という表現で、大統領の裁量に委ねている。この規定はこのような決定とある外国との協定を議会の承認なしに行うことに道を開くものではないのか?

(D) しかも、米軍による施設の利用に関する第四条は米国に対してフィリピン政府が承認すれば、天然資源を調査、探索、開発、利用してもよい、としている。これらの活動は実際にはすべて大統領の裁量に委ねられており、明文的な歯止めはどこにもない。

フィリピン軍は米国の軍隊か?

(J) 第七条第五項(指揮および指揮関係)では、フィリピンの基地司令官は「暗号区域および機密の情報機器が設置された区域」と主張された区域には自由に入出入りできない。自分の基地内の全ての区域に入出入りできない司令官など、どこにいるだろうか? フィリピンの司法権を定めた同項は、「米司令官は米国に使用の許されたすべての施設および地域の保安に責任を持つ」と規定された第六項の前では事実上無きにひとしい。基地保安のための合同のパトロールまでが許され、フィリピン軍基地司令官は、施設の管理、運営、保安に関して従来以上のより広範な権限を米軍基地司令に委任することすらできる。これはフィリピン軍の指揮権を米軍基地司令に与えることになってしまっていないか?

(K) 環境保護に関する第八条特別条項の規定は曖昧である。軍事活動によって発生する有害あるいは毒性廃棄物の廃棄に関する管理監督は米司令官に委任されており、事実上米軍に白紙委任されている。

(E) 「米軍による施設利用」を定めた第四条第十二項は憲法の非核条項へのかからさまたな攻撃である。その表現は事実上一九八八年のマンガラプス・シュルツ(いづれも当時の外相)合意メモの引き写しである。確かに核あるいは非通常兵器とその部品の貯蔵および取り付けについてはフィリピン大統領の裁量による許可が必要である(「事前にフィリピン政府の同意を受けなければならない」)。しかし、核兵器を搭載した航空機あるいは艦船の領空・領海通過、着陸、寄港については、相互に合意した現行の手続きに従う以外は、フィリピンの同意なしに行うことができるのである。「現行の手続き」とは一体何なのだろうか。なぜ協定にその内容を明記しないのだろうか?

保護される米軍の特権

(F) 第四条第十三項では、フィリピンの米軍隊はその資産、従事者も含めてフィリピンの支出によって全面的に保護され、安全が保障されている。そのための特例法すら確約されている。すなわち「フィリピン政府は国内における米国の施設、装備、資産、記録および公式情報の適性な保護と保全を確固とし、

これらを犯すものをフィリピンの法律に従って処罰するために必要と思われる特例法の制定および他の措置につとめることに合意する」。私たちよりも強固に武装した外国人たちの権利と特権を擁護するためになぜ特別の法律など必要なのだろうか?

(G) スービック湾の訓練地域のほとんどはフィリピンの管轄とされているが、一方では米国に「訓練の必要に応じた十分な優先的立入り権」を与えている。米軍のための低空飛行訓練コースまでがフィリピン国防省によって認可されている。

(H) 一年後の一九九二年に米国がクラーク空軍基地を返還する相手が、フィリピン政府ではなくフィリピン軍であることはきわめて注目に値する。これは意図されたものであり、その結果、この協定はほとんどの基地が国軍に「返還」された一九七九年の協定と同じような代物になるだろう。そこではクラーク空軍基地司令部とスービック海軍基地司令部の管轄下にある周辺地域内のすべての施設に対して米軍の使用と運用の権限が事実上認められた、国軍はたんなる米軍基地の保安部隊となつたのであつた。

(I) 第六条は「この協定によって使用を許された施設および地域内に自由に出入りし、それら相互間を自由に移動すること」を保障

原子力艦 入港情報

(39)

1991年9月16日～10月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級

S級=原子力潜水艦スタージョン級

L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◇9月17日 午前10時52分原潜ハドック(P級) 横須賀を出港。
- ◇9月20日 午前9時53分原潜ラホヤ(L級) 横須賀を出港。
- ◆9月22日 午後1時51分原潜ホノルル(L級) 横須賀に入港。
- ◇9月24日 午前9時03分原潜ホノルル(L級) 横須賀を出港。
- ◆9月25日 午後3時47分原潜ホメルル(L級) 横須賀に入港。
- ◇ 同日 午後4時06分原潜ホノルル(L級) 横須賀を出港。
- ◆10月5日 午後1時00分原潜パッファロー(L級) ホワイトビーチに入港。
※佐世保・ホワイトビーチの記録は未確認です。

●1991年1月1日から10月15日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	25回(うち原潜25回)
佐世保	6回(うち原潜6回)
ホワイトビーチ	3回(うち原潜3回)

●死ぬ思いで卒論を出し終えた(お)は幸いにして死なず、休む間もなく金融の世界に飛び込んだ。そこで彼が見たものは、電話一本で瞬く間に一〇ケタの金が動き、取り引きされるという現実だった。(お)には今まで想像もつかなかったことが毎日実際に起こる職場からの帰り道、彼は事務所に立ち寄った。彼のそこでの仕事は十六ページの「会計報告」の作成である。会計を整理する(お)の記憶には昼間彼がつくった小切手の額面が生々しく残っている。(お)の胸中は複雑である。この事務所に集まったお金に込められた思いはどんなものなのだろう。現実を変えるために投じられたお金の重みを考えるとき、昼間の世界になんともいえないやりきれなさを感じる(お)であった。

●世界は転機、PKOとブッシュ提案で平和運動も転機、目の前で紺のスーツに身を固め早くも溜め息まじりで仕事のグチをこぼす(お)君も転機。オレだって負けない。人生のテンキがもう目の前だ、なんだかよくわからんがそうなのだ目をツリ上げたりしている。三〇日には掃海艇が帰ってくる呉まで平和船団にいつてくるからね。(た)

●花には太陽を、子供には平和を！ 弱肉強食の資本主義社会を泳ぐ技術ではなく、連帯の悦びを体験させたい。

(いぬい・たかし/鎌倉市/幼児教育者)

●いつもためになる情報をありがとうございます。世の中、だいぶ大変になってきそうですが、どんな事があっても平和と正義を求め、声が届く最後には勝つ、と信じています。流行

読者から

●今日こそ、平和、反戦、その存在意義の間われるとき。その平和戦線の後退、凋落、何処に誰に向かって嘆き訴うべきか!! 「トマ喰い虫」、この果敢な行動に最後の望みと期待を賭けます。共に頑張りましょう。

(石黒寅毅/キリスト教牧師/高崎市)

おたより待ってます!

歌ではありませんが、「愛は勝つ」といったところ。クサイ手紙で申し訳ないですが、健康に気をつけて気長にやりましょう。

(小泉 謙/神奈川県寒川町/会社員)

編集室から

●死ぬ思いで卒論を出し終えた(お)は幸いにして死なず、休む間もなく金融の世界に飛び込んだ。そこで彼が見たものは、電話一本で瞬く間に一〇ケタの金が動き、取り引きされるという現実だった。(お)には今まで想像もつかなかったことが毎日実際に起こる職場からの帰り道、彼は事務所に立ち寄った。彼のそこでの仕事は十六ページの「会計報告」の作成である。会計を整理する(お)の記憶には昼間彼がつくった小切手の額面が生々しく残っている。(お)の胸中は複雑である。この事務所に集まったお金に込められた思いはどんなものなのだろう。現実を変えるために投じられたお金の重みを考えるとき、昼間の世界になんともいえないやりきれなさを感じる(お)であった。

●世界は転機、PKOとブッシュ提案で平和運動も転機、目の前で紺のスーツに身を固め早くも溜め息まじりで仕事のグチをこぼす(お)君も転機。オレだって負けない。人生のテンキがもう目の前だ、なんだかよくわからんがそうなのだ目をツリ上げたりしている。三〇日には掃海艇が帰ってくる呉まで平和船団にいつてくるからね。(た)

存続される通信基地と特殊部隊

(M) 私たちが入手したこの前の草案と同じく、付則B2に通信施設は引き続き米軍が使用すると記されている。そこにはアンガット山、ヴィラモール空軍基地、マニラ航空輸送事務所、ボンファシオ、ダウ、スタリタ山駐屯地、マニラ測候所およびタナイ基地が含まれている。

(N) 通信施設に関しては、米軍はフィリピン領土内のどこにでも、拡張、追加するフリーハンドを事実上与えられている。すなわち一変更の必要が生じた場合には、フィリピン政府は求めに応じて新たな周波数域および相互に合意した施設を提供することによって、

(L) 「米国軍隊が使用を許される施設の範囲」を定めた付則Bによれば、スービック湾の約八五%が実効上米軍の管轄と使用の下に置かれる。多くの軍事重要施設および娯楽施設のうち、フィリピンが管轄するのは、拡張されたSUBCOM集合住宅、訓練施設および地域、指定された投錨地、指定された分水界、そして正面ゲイト区域に限られている。しかも、これらはすべて米軍が求めさえすれば共同使用が可能である。

「補償金」のまやかし

(P) 最後に保障金について指摘しておきたい。フィリピンが今後少なくとも十年間にスービック湾のみを提供する代償として受け取る金額は二億三千万ドルである。米議会の支出計画によればその内訳は、

- 基地周辺地域への通常の経済支援に一億ドル
- 軍備購入資金の肩代わりが一億ドル。ただし、これらは貸し付け金であり、返済しなければならぬ。
- 国際軍事教練プログラムのもとでのフィリピン軍兵士の訓練のための三億ドル。

米軍当局を支援する。これでは、米軍はノーチェックで一つの巨大な軍事基地に我々を組み込み、フィリピン諸島を軍事施設に変えてしまうことができるではないか。

(O) 特に警戒を要するのは特殊作戦部隊の継続配備(スービック湾の施設の使用を認められた米軍の水準を定めた付則Aに記されている)である。これらの部隊は発展途上国における反乱鎮圧、非通常戦争、低強度型戦争のスペシャリストである。これらは、わが国の平和に貢献するだろうか?



Isa ang P...
110

である。

これらに、フィリピン援助計画の米国の負担金、食料援助、災害復興支援を加算すれば総額は七億七三〇〇万ドルになる。しかし、フィリピン援助計画の二億ドルと公法四八〇に基づいてバングラデシュにも与えられている食料援助プログラムは、本来基地の有無には関係なく、算入されるべき性格のものではない。さらに、ここに災害復興支援が含まれているのはどういう訳であろうか? われわれはそれは人道的理由によるものであると考えてきたのだが。

事務所移転のお知らせ

●このたび渋谷の事務所を10月一杯で閉鎖し、横浜に全面移転することになりました。

新しいアドレスは次のとおりです。

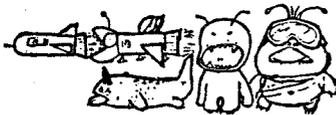
〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1
トマ喰い虫社
☎045(563)5101 FAX045(563)9907

●東横線日吉駅(渋谷から急行で20分)から歩いて6~7分のところです。ぜひお立ち寄りください。

●なお、封筒は在庫がなくなるまでしばらく旧いアドレスのものを使わせていただきます。

また読者カードも今月は一部古いものを同封しましたが、確実に転送されますのでそのまま使って下さって結構です。郵便振替口座は変更ありません。

●機関紙やミニコミを送って下さっているみなさんは宛先の変更をよろしくお願ひします。



次回の発送日は、

11月24日(日)午後2時からトマ喰い虫社で。

ちょっとした時間でも結構です。一度のぞきに來てください。また、編集のボランティアも募集中。ご連絡ください。

会計報告

(91. 9. 16~10. 15)

[収入]

○前月からの繰越	232,453
経常繰越	382,453
借入金繰越	△150,000
○今月の収入	46,000
会費収入	34,000
内	
維持団体	0
維持個人	13,000
参加団体	0
参加個人	3,000
通信会員	18,000
カンパ収入	10,000
行動収入※	0
資料収入	2,000
反核ホットライン収入	0

[支出]

●今月の支出	248,154
家賃(10月分)	30,000
水道光熱費	7,550
電話代	19,284
郵送費	42,719
文具・備品	77,991
印刷費	68,111
行動費※	0
資料経費	1,300
反核ホットライン経費	0
雑費	0
郵便振替等手数料	1,199
●次月への繰越	30,299
経常繰越	180,299
借入金繰越	△150,000

*行動収入、経費は原則としてプログラム毎の独立採算となっているため、これにあてはまらない一部の取支のみが経常会計に計上されます。

会計より

●いつも会費・カンパを送ってくださってありがとうございます。会計報告にありますように、今月は事務所移転で出費がかさんだうえ、入金ペースが落ち込んだため、またまた懐具合が大部あやしくなってきました。

●年末にはあらためて一時金カンパのお願いをいたしますが、未納会費のお心あたりの方はご送金をよろしくおねがいたします。またカンパもよろしくお願ひします。会費の納入状況は次回が次々回の発送でお知らせしたいと思ひます。

●領収書は振替用紙の控えて代えさせていただきますが、とくに必要な場合はその旨お書き添えください。

月刊トマ喰い虫第七十二号

一九九一年一〇月一〇日発行(通巻七十二号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動

〒223 横浜市港北区箕輪町三-三-一

トマ喰い虫社

☎045(563)5101 5101

FAX045(563)9907

一郵便振替一東京六一三六一四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間一〇〇〇円)